

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079900165
法人名	株式会社 エルダサービス
事業所名	グループホーム 高見
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区高見5丁目2-1 (電話) 093-651-1275

評価機関名	株式会社アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年3月31日	評価確定日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(H20年3月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人、非常勤 0人、常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,667円			

(4) 利用者の概要(3月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.7 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック / 新日鐵八幡記念病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中学生の元気な活動の様子が見える高見中学校のグラウンドに面し、また、周囲には公園もあり、閑静で緑に囲まれた自然環境の中に㈱エルダサービスが運営するグループホーム高見がある。近郊には、市総合体育館・到津の森公園・美術館があり、入居者は訪れるのを楽しみにしている。エルダサービス・グループのスケールメリットを活かし、市内に4箇所あるグループホームの管理者が共に話し合いの機会を持つなど、グループホーム同士のネットワークもあり、それぞれの特徴を活かしながら運営を行っている。ケアの基本方針として自分らしさを大切に「気づきと思いやりの精神」で日々のケアを実践されている。今後は更に地域とのネットワークを高め、認知症介護のノウハウを地域に情報発信するなど、これまでの実績を活かしたグループホーム高見の展開に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の調査では、ケアマネジメントの個別の記録の充実と居室の窓の柵が課題となっていた。ケアマネジメントの記録の整理に関しては、みんなで話し合って十分整理されていた。窓の柵については、防犯上の問題もあり現状維持となっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果をミーティングで報告し、改善項目をホームの課題として受けとめ前向きに取り組んでいる。自己評価は管理者が中心となって行い、前回の課題解決をふまえ、評価の一連の過程を通して、ケアの振り返りや見直しを行っている。</p>
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催し、サービスの状況などを報告し取り組みに関する意見交換を行っている。地域の情報は町内会長により情報提供をいただいている。今後は、運営推進会議のテーマを具体的に設定し、運営推進会議の機会や場を活かし、認知症になっても、地域で安心して暮らせることなどを地域の方々へ積極的に情報発信を行うことが求められる。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>家族へは毎月定期的に日常の様子を添えて「高見だより」を送り、家族の方々へ大変喜ばれている。家族の不満・苦情は面会時などの機会に常に職員が尋ねるように心がけ、家族の意向を確認するようにしている。運営推進会議では家族の意見や苦情などを気軽に言える場として活かしていくことが求められる。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>グループホームの庭には花壇があり、ベンチに腰掛けて近隣の方の話をしたり、ちょっとした協力が得られる関係にある。地域の行事・中学校の運動会・盲学校の文化祭・保育園でのバザーなどに参加しており、隣接する施設や地域との関係づくりができてい。今後は、地域の方々の介護の相談に対応するなど、認知症の専門性を活かした積極的な情報発信が求められる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム高見では「人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスを優先し、気づきと思いやりの精神で支援していく」を常に職員間で話し合いケアを実践している。地域密着型サービスの意義を理解しており、職員全員で確認し、住み慣れた地域で安心した暮らしができるように支援していくことが方針となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を利用案内時の説明書及びホームの見やすいところに掲示し入居者及びその家族などに必ず理念を伝え、理解してもらうように努めている。また、日常的な取り組みとしても、サービス提供場面での声かけ、態度など日々確認し職員間での毎朝のミーティングや定例会の機会にも振り返り理念を確認し日々の業務にのぞんでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、運営推進会議には町内会長がメンバーとして参加し地域の行事や活動の情報交換を行っている。地域の行事には参加しており、近所の方々が遊びに来たり立ち寄ってくれるホームを目指し取り組んでいる。グループホームの意義や役割の具体的な広報・啓発活動も今後の取り組みとして検討している。認知症介護のノウハウを地域で活かす取り組みが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をミーティングで報告し、改善項目をホームの課題として受けとめ前向きに取り組んでいる。自己評価は管理者が中心となっており、前回の課題解決をふまえて、評価の一連の過程を通してケアの振り返りや見直しを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に関し検討事項や懸案事項について、その過程を報告し一つひとつ積み上げていくようにしている。現在、ホームで取り組んでいる行事や地域との交流・個別対応についても報告・意見交換などを行っている。今後は認知症になっても地域で暮らし続けることができるなど、認知症の理解を高めるために積極的に情報発信を行うことが求められる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新や審査会資料など担当者に関わる機会を多く持つことで、ホームの考え方・運営や現場の事情などを伝え連携を図っている。市より派遣される介護相談員を月2回受け入れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要な場合には支援ができる事を入居者及び家族に説明している。また機会あるごとに職員への説明も行い入居者へのアドバイスに結びつけている。現在、制度活用の入居者がおられ支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に2ヶ月に1回、「高見だより」を郵送しており、その際、入居者の暮らしぶりや日常の様子を伝えるために写真や手紙を添えている。また、面会時には、家族に記録も見ていただき、日々の暮らしや健康状態などを伝えている。金銭管理については、家族の了解を得て、その代替方法を家族と相談の上、定めており、家族にその出納を明らかにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは投書箱を設置し、普段においては、面会時に気軽に要望や苦情を出していただけるように支援している。苦情や要望などは即座に検討し改善に努め、運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的になじみの職員によるケアを心がけている。新規採用時も、前任者との引継ぎなど混乱しないように入居者にきちんと紹介し、なじみの関係ができる段階になるまでサポートしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	ホームで働く職員について性別・年齢などを理由に採用対象からの排除は行っていない。職員が社会参加や自己実現に向けて生きがいを持って勤務できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権に配慮したケアができるように外部の人権セミナーに参加したり、定例会で身体拘束マニュアルを作成し、認知症の入居者への対応に関して、どのように接することが必要で重要であるかを学びながら取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	採用時には新人研修などにより、法人理念・ホームの理念などを説明している。専門的知識などの研修が必要な場合はフォローアップ研修を計画し実施している。内部ではOJTにての指導に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人のグループホーム4箇所のネットワークがあり、勉強会など行い交流を図りながら、サービスの質の向上に努めている。今後は、これまでの認知症介護の実績やノウハウを活かし、法人外のグループホームとの交流をすすめ、人事交流や他施設への見学や相互研修会など、法人外のグループホームとのネットワークを図ることが望まれる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居時には面談を行いホームの説明・家族の希望・要望または生活暦などを把握し対応している。入居時には、新しい環境になじめるように、家庭で使用されていた食器・寝具・家具など持ち込んでいただいている。また、必要時には、家族の協力を得て面会で安心してもらえるように取り組んでいる。		
		本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	何よりも入居者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを尊重するという信念のもと職員は家族のように自然にさりげなく対応している。また、納得されるまで十分に話を聞き、目線をしっかり合わせた対話を心がけている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人の生活歴・生活習慣を知り、培ってきたライフスタイル・価値観を尊重し、日々の行動や言動・言葉や表情などから真意を図り、本人が行いたい事、行いたくない事を把握し、その人らしい暮らしや尊厳を支えているが、更に本人の思いや意向を掘り下げていくことが求められる。		入居者の思いや意向の把握は毎日の職員の気づきによるものが大きく、職員の気づきをメモでその時々記録し、アセスメントに活用できれば、更に入居者の意向に寄りそったケアが可能になるのではないかとと思われる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の要望や意見を第一に考え、関係者とケアカンファレンスを行い介護計画を作成しているが、アセスメントの内容が不十分なため、本人や家族のニーズを反映した介護計画の作成が望まれる。		家族との協力関係ができているので、情報を引き出し情報分析を行い、アセスメントの内容を充実していくことが求められ、職員全員で意見を出し合い介護計画に反映していくことが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画に実施期間を明示し期間ごとに評価しており、また状態変化に応じて見直しを行いモニタリングを行っている。家族とは面接にて意見や要望を把握し計画も反映している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人のグループホームが4箇所あり、ネットワークにより、情報交換や勉強会などを実施している。また、法人は高齢者ケアの多彩な事業を展開しており、マンパワーやケアのノウハウなどバックアップ体制がある。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	定期的に主治医(内科)の診察があり、緊急時の対応も可能である。歯科医師の診察も可能な対応がとられている。年1回の健康診断も実施され、医師の指導を受けられ相談できる体制を整えている。また家族への報告もなされている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に伴う意思確認書(看取りについての事前確認書)を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明や終末に対する対応指針を定めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	勉強会やミーティングの際に、入居者や家族の個人情報に関する取り扱いを徹底させている。また、日々の関わり方にも配慮し、マナー・心得・挨拶・言葉づかいに注意を払い、本人が思っている(現実)を否定しない、また入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	グループホームの日課では基本的な1日の流れは持っているが、行事・ドライブなど楽しみごとが共有できるように、一人ひとりの体調に配慮しながら、一人でできることなど、その時の本人の気持ちを尊重して、ペースに合わせ掃除・洗濯物たみ・調理手伝い・散歩など、その日によって無理なく実施できるように支援している。一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切にし個性のある支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は季節に合った旬の食材を取り入れ、調理・盛り付け・片付けなども入居者と共に行い、栄養管理も整っており、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。咀嚼・嚥下などの身体機能その他の健康状態などにより調理法を考えたメニューも提供されている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	健康状態のチェックにより入浴可否を見極め、個別入浴を行っている。入浴時間の長さ・回数時間帯は入居者の意思などを優先し対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	自立支援を図るために入居者の(できること・できそうにないこと)については手や口を極力出さずに見守り一緒に行うようにしている。ホーム内の掃除・洗濯物たたみ・食器の片づけなど入居者のその日の気分によって無理なく行っていただけように経験や知恵が発揮できる機会をつくっている。地域の行事参加などの楽しみごと入居者と相談しながら参加している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	本人の気分や希望に応じて、散歩・買い物あるいは近隣訪問などに出かけている。年内の行事計画も立案され、一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、地域の祭り・運動会など季節感を感じることができる活動への参加・外出・ドライブなどの支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	夜間帯を除き、日中は玄関に鍵をかけず開放し、いつでも出入りができ、また、徘徊などで外出する傾向がある入居者は常に視界に入れ、外出を察知できるようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、避難訓練を行い、全ての職員が誘導方法を熟知している。災害対策は地域住民の協力が求められ、地域住民の非難訓練の協力・参加が必要である。避難経路や地域の支援を得やすいよう出入り口など環境は整備されている。		職員一人の夜勤という事もあり、消防署を含め地域の協力体制については、地域住民の非難訓練の協力・参加を得るために運営推進会議や地域の会合などで取り上げ、協力体制を築く必要がある。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人内の栄養士が立てた献立により、栄養バランスが取れた食事が提供できている。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個々に合った好き嫌いも把握されており、嗜好に応じて個別の対応もできている。水分摂取にも配慮されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	平屋建てで廊下・リビングがゆったりとしている。整理整頓・清掃がよくいき届き、対面式のキッチンがあり、共用空間に家具が効率よく配置され家庭と変わらない雰囲気づくりに工夫がある。建物の外周には畑や花壇があり、収穫を楽しんだり、四季折々の花が鑑賞できるなど環境の配慮がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には使い慣れたベッド・箆笥・テレビ・仏壇などが置かれ、家族や友人などの写真が飾られ、思い思いの家具などの配置により、個性的な居室となっている。入居者がゆっくりとくつろぐことができる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			